

平成27年度第9回政策会議

日時 平成28年2月1日(月) 14:00~15:00
会場 市長会議室
参集者 工藤市長 中林副市長 片岡副市長 川越企業局長
種田企画部長 高橋総務部長 入江財務部長

1 第2次函館げんきな子 食育プラン（函館市食育推進計画）（素案）について

◎対応 藤田保健福祉部長 大泉保健福祉部次長 佐藤保健所次長
船水健康増進課長 木村保健福祉部管理課長

◆ 議題の趣旨 ◆

第2次函館げんきな子 食育プラン（函館市食育推進計画）（素案）について協議しました。

◆ 協議の結果 ◆

本件の内容は了承されました。

◆ おもな発言 ◆

□船水健康増進課長

先ず計画策定にあたり、計画策定の背景、位置付け、期間、推進体系について記載している。本計画の期間は平成28年度から32年度までの5年間とし、計画推進にあたっては、関係部局からなる内部組織と、あらたに小中学校等の教育関係団体や生産者などで構成する外部組織、計画推進協議会を設置し、進めていく。次に、前計画の概要、これまでの主な取り組み、指標の達成状況、食を巡る現状と課題について記載している。

次に指標の達成状況ということで、「朝食を必ずとる子どもの割合が増える」「子どもの肥満の割合が減る」「子どものむし歯のある割合が減る」「学校給食おける地場産（北海道産）食材の割合が増える」「ヘルスメイト（食生活改善推進員）を増やす」の5項目の指標のうち、4項目で目標達成、または改善傾向にあるとの結果となった。次に5項目の指標の詳しい評価を記載しており、特に朝食を必ず取る子どもの割合は小学4年生では横ばい状態、中学1年生では改善傾向が見られていますが、約2割の子どもが朝食を欠食することがあるという結果であった。また、学校給食における地場産食材の使用割合は全ての項目で増加している。

食をめぐる現状と課題では、食について、健康について、地産地消について記載しており、おやつや共食、肥満、食習慣、虫歯での課題が明らかとなっているが、特に小中学生の約1割が週に1日から2日は孤食の状態にあった。

次に、食育推進の理念と基本目標については、第2次計画では第1次計画の特に函館の未来を担う子ども達のための食育を組織的総合的に推進することによって食を通じて心豊かで健やかな暮らしを実現するという目的を継承し、引き続き前計画の理念、基本目標、具体的目標に基づき進めていく。

各分野の役割と取り組みについては、各分野における重点取り組みとして、新たに早寝早起き朝ご飯の実践やおやつに対する取り組み、子どもの発達発育に応じた食育を推進、食品関連事業者の取り組み、ボランティア等との連携、地場産食材の使用など9項目を加えている。

食育推進のための目標値については、9項目の指標、19区分の目標値を設定し、新しい指標としては、1項目目の就寝時間、3項目目の共食、5項目目の適正体重、7項目目の12歳児の虫歯を追加している。

最後に参考資料として第2次計画策定にかかる経過について記載している。

■中林副市長

計画を作っても、実行するのは母親だけなのではないか。

■藤田保健福祉部長

家庭の役割は大きいと思われる。

■中林副市長

どうやって親を変えていくかということである。

■工藤市長

パンフレットを作ったり、ポスターをはったりとか、そういうことだけではだめだ。

■藤田保健福祉部長

関係部局と実効性のある事業を展開したい

■種田企画部長

それでは計画については、提案のとおり承認としたい。